

■大正大震災雙六の解説

commentary_tkjSG352.pdf を参照のこと。

これは、2017年の1年間、月刊「清流」（清流出版株式会社）に掲載された筆者執筆の「絵双六に魅せられて」の記事である。

本双六は、大正12年年9月1日午前11時58分に起こった大正（関東）大地震の惨状を描いた絵双六である。大正末期、大正13年頃の発行で、案は月の屋、画は山村耕花（※1）である。双六の構成は表①を参照のこと。

表①■大正大震災雙六の構成

バラック	御目出度	上り 生命・安全・財産	仮住居	招魂社	行方不明
上野公園	被服廠	赤十字外 各救護班 収容	同居	日比谷公園	
浅草公園	船の中	遭難	軍隊警察	丸の内	
避難場所	庭前	ゆり出し	家の中	芝公園	

※1 山村耕花（やまむらこうか）：大正・昭和期の日本画家・版画家。明治19(1886)年ー没年昭和17(1942)。出生地東京。東京美術学校日本画選科〔明治40年〕卒。尾形月耕に師事。初期文展に出品して名を認められ、大正5年第3回院展に「業火と寂光の都」を出品、同人に推された。第8回文展「お杉お玉」、第4回院展「八朔」、第8回院展「江南七趣」、改組第1回文展に「大威徳明王」などを次々出品。また烏合会、珊瑚会にも作品発表。版画、風俗人物画を得意とし、大正中期から錦絵版画を制作。石井柏亭と共作版画「現代婦人百態」、川村花菱との合作「大震災記」「大正むさしあぶみ」の著作がある。また谷崎潤一郎「お艶殺し」、邦枝完二「歌麿」（大阪朝日新聞）などの装幀、挿絵も手がけた。

以上